

26th IUPAC International Symposium on Photochemistry

(第 26 回 IUPAC 光化学国際会議)

大阪大学産業科学研究所

教授 真嶋 哲朗

(平成 27 年度国際会議等開催準備助成 AF-2015226)

キーワード：光化学、レーザー光プロセッシング、レーザー測定技術

1. 開催日時

2016 年 4 月 3 日（日）～8 日（金）

2. 開催場所

大阪市中央公会堂

〒530-0005 大阪市北区中之島 1 丁目 1 番 27 号

3. 国際会議報告

世界的な化学の国際組織である IUPAC (The International Union of Pure and Applied Chemistry) は 1919 年の産業および学術機関関係者による設立以来、世界的視野に立った化学の発展と人類の福祉に寄与するための化学の応用につとめており、その事業の一つとして種々の専門分野の国際会議を開催してきた。IUPAC 光化学国際会議は、光に関連する多種多様な科学を議題とすることで新たな発展を目指すものであり、また光に関連するさまざまな産業界への展開を世界に向けて発信することを目的としている。1964 年にストラスブルグで第一回大会が開催されて以降 50 年以上の歴史のある会議で、これまで 2006 年の京都を除きすべて欧州で開催されてきたが、このたび 2016 年 4 月 3 日より 4 月 8 日の日程で大阪で開催されることとなったものである。開催期間が上述の日程となったのは、大阪での桜の開花が例年この時期であることを見越してのものであり、海外の多くの参加者の希望に沿ったものである。本年は例年より桜の開花が若干早かったものの、会期末である 4 月 7 日の雨まで満開の桜が楽しめるまさに春爛漫という雰囲気の中、大阪の象徴的な建築物である大阪市中央公会堂で会議は開催された。

参加者は 582 人であり、日本以外から 27 ヶ国の 383 名の参加があり、半数以上が日本以外であった。特に今回は中国や韓国など近隣国からの参加者が目立ち、これらの国々での最近の科学技術の振興を印象づける学会となった。

本国際会議で口頭発表は 303 件(基調講演、招待講演、若手と学生の発表を含む)、ポスター発表が 189 件と数多くの発表が行われた。基調講演の講演者は藤島昭教授(東京理科大)、Prof. R. Mathies (アメリカ)、Prof. T. Carrel (ドイツ)、Prof. C. Bohne (カナダ)、Prof. H. Andersson (イギリス)、Prof. D. Bassani (フランス)、Prof. C. Li (中国)、Prof. N. Aramaroli (イタリア)であり、当該分野の第一人者による最先端の研究および今後の展開が示された。また、10 件の招待講演が行われ、活発な議論が行われた。多種多様な研究のなかで、金属、プラスチック、セラミックス、複合材料、生体材料などのレーザー光によるプロセッシングに関する研究、また、最新のレーザー技術に基づく測定技術の開発などの基礎的研究に関する研究も行われ、活発な議論が展開した。

本会議では、学生および 30 歳代の若手研究者による口頭発表も行われ、これらの発表ならびに学生によるポスター発表のうち、優秀なものに口頭発表賞およびポスター賞を閉会式で授与し、更なる発展を期待し会を閉じた。



謝 辞

今回の国際会議は公益財団法人天田財団を含む諸財団の資金援助ならびに諸学会の後援を受け開催いたしました。感謝いたします。